

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 3月 31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470214408		
法人名	シューペルブリアン 株式会社		
事業所名	グループホーム 輝き ゆきの家		
所在地	〒738-0512 広島市佐伯区湯来町白砂423-2		
自己評価作成日	令和5年2月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3470214408-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK		
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号		
訪問調査日	令和 4年度分 令和 5年 3月 31日（金）		

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

穏やかに日頃の幸せを忘れない毎日を過ごせるようご支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム輝き・ゆきの家は、鉄骨造りの平屋建てで、周りは、自然に恵まれ四季を感じられ、安心して暮らせる環境がある。専門のスタッフは、認知症の進行を穏やかにすることを目的に共同生活をする事で、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している。家族の方々からは、「生活全般に於いて、安心してお任せ出来ます。」との感謝の声が聞かれる。そして、まだまだコロナ感染が終息されていない中、施設で過ごすことが多くスタッフもいろいろ工夫され、豆まき・ひな祭り・花見・敬老会・クリスマス会等の催し物が行われている。又、身体機能を維持する為に日常としている体操の他、月2回、東京からインストラクターによるズームでの機能訓練をスタッフと共に心掛けている。地域との交流も良好で、清掃活動をしたり、地域の美味しい水で育った米などを購入したりして、地域に溶け込んでいるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員が常に目にはいる場所に掲示し、運営理念を確認している。	施設の理念である「豊かな自然と美しい水が四季の魅力を彩る湯来町で笑顔の種と日頃の幸せを忘れない毎日をお守りします。」を玄関ホールに掲げ、全職員は、出勤時には、目を通して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍のため地域交流はほとんどない状況であった。散歩時等に挨拶する程度である。	今は、コロナ感染予防の為、地域の行事等がなく、地域との交流は、出来てないが、職員は、清掃活動や草刈りに参加して交流を図っている。又、地域の消防団との連携は、出来ており、合同で避難訓練等、行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今まで支援してきた介護方法等地域に活かせる機会をもち還元していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事やサービスに関してご意見やご報告を頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、地域包括支援センター職員・訪問看護師・薬局・広島市認知症地域支援推進員・民生委員・町内会長・家族代表・シューベルプリアン取締役・管理者等で構成しており、利用者状況や事故の状況、行事等の報告をして、意見を頂きサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進委員会で意見や助言を頂いている。必要時には随時、連絡・確認をしている。	区の生活課に書類を提出したり、事業所の実状や取り組みを相談したり、研修会の案内を頂いて参加する等して、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	行動制限のないように日頃から見守りを行い安全確認をしている。	身体的拘束等適正化のための指針を示し、目的・基準・規定に向けた対応・体制づくりを行っている。身体的拘束廃止委員会を定期的で開催し、又、月1回、研修を行い、職員一人ひとりが、身体拘束の弊害等を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間で研修を行い知識向上に努めている。状況把握と対応を行っている		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	勉強会があり参加し学ぶ機会がある。パンフレットを設置している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約説明の際にはグループホームの趣旨をご理解頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望等は、耳を傾け汲み取るようにしている。家族には面会時等に要望等を伺うようにしている。	施設玄関に苦情相談箱を設置しているが、日頃から、家族と電話や面会時に連絡を取り合う事で、その都度、要望等を聞き、家族からの声は、職員で協議して対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度ミーティングを開催し、希望や意見を出している各職員とのコミュニケーションを図り意見や提案を取り入れている。	管理者は、日々の業務の中やミーティング時に於いて職員からの意見や提案を聞き、働きやすい環境で、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。(全椅子の交換・花の購入等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体で勉強会を行っている。自主的に研修等を受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	Zoom会議等の参加で情報交換を行っている。相互訪問する事により、自施設への指摘等を受け業務改善に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に施設内を見学して頂き、不安や要望を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	個々に応じたサービス提供に努め支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前訪問の機会を設け、本人や家族の不安・要望を傾聴している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その時々々の思い、出来ることや今までの習慣を尊重し生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会不可となっているが、可能時には面会され以前の暮らしや思い出を話されている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族から馴染みの人や場所等を聞き本人と話している。	コロナ禍で、面会時の制限はあるが、出来るだけ短時間でも直接面会が出来たり、電話や手紙等で交流を途切れないよう支援している。	ともすれば入所すると外部との関係が途切れてしまいがちであるが、馴染みの関係を途切れないよう支援していただける事を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の特徴を把握し座席を考え楽しく会話できる場を提供し関係づくりに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族とのメールや電話で近況を聞き、いつでも支援させて頂く事を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を考慮し、状態や表情から思いや意向を汲み取り本人らしさが出るよう支援を行っている。	日々の生活の中で利用者の思いに沿って、意向や希望を理解して、出来ることは支援している。(新聞購読・花の水やり・編み物・手芸等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの習慣を本人含め、ご家族からお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に応じて生活できるよう日々の生活の中から本人の思いを共感しさりげない支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティングの際、利用者個々の状況等確認し支援方法を検討している。日々の生活状況のなかからも支援方法を検討し、見直しも行っている。	本人の思いや家族の意向・訪問看護師・職員の意見を入れ、日頃の状況・個別ケア記録を参考にして、作成されている。通常の見直しは、6ヶ月に1回、となっているが、利用者の状況の変化等があれば、その都度見直し、状況に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	連絡ノートを活用し情報の共有を行い、毎月のミーティングで話し合い、職員の気づきを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ミーティングの際に支援方法について話し合いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	気候がよい時に施設周辺を散策する事で地域資源を職員と一緒に楽しみ、感じる事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族様の理解を得てかかりつけ医を確認している。原則家族様に病院受診をお願いしている。	本人及び家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医は24時間対応しており、月に2回の往診がある。訪問看護は、週1回、歯科は、月2回の往診がある。他科受診は、家族の協力を得ているが、都合の悪い時は、職員が、対応をして適切な医療を受けられるよう支援している。	

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回訪問看護師が来られ、健康管理・医療面を相談している。勤務外では電話で看護師に相談できることになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院にこまめに連絡し、医師や看護師、また相談員との連携をはかり、状況を把握する。退院後の対応等も細かく相談していくよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	延命治療の意思の書類をご家族に記入、提出して頂き本人、家族の思いを確認する 主治医、訪看と情報共有している	家族に契約時、重度化・終末期対応指針を説明している。看取りについて、最後はここでと希望された時、改めて意向を確認し、利用者、家族の思いを汲み取りながら医師・訪問看護師・職員・家族との連携を行い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ミーティングの際に職員個々が対応出来るよう確認を行う。また、マニュアル等の作成を行って情報共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回施設内で災害訓練を行っている。協力施設への連絡体制を整えている。	年2回の消防訓練を行い、日中、夜間想定で行われ、通報訓練・消火器の使い方・避難経路の確認等を実施している。当日は、消防団・民生委員・特養等の参加もあり、地域との協力体制を築いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員がプライバシーに配慮した言葉かけ等を心がけている。	プライバシー保護、接遇(言葉遣い、清潔、笑顔での対応等)について研修をしている。言葉遣いや対応等で、気になるところは、お互い注意をし合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の会話から希望を確認している。自発行為を尊重し掃除等をされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕草や行動を見極め、個々にあった生活への思いを察するよう配慮している。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容師に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中BGMをかけ落ち着いた雰囲気ですべてできるような配慮している。	食材は宅配業者に依頼しているが、ご飯は、施設で炊いている。行事食(おせち料理・ひな祭り・敬老会・クリスマス会等)も多く、又、利用者の状態に合わせて、刻み食やムース状を提供している。利用者は、テーブル拭きや茶碗拭き等、出来る手伝いをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に応じた食事形態をとっている。食事量・水分量が少ない人は、職員間で情報共有を行い支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	言葉かけを行い毎食後、歯磨きを行っている。ポリドントで義歯洗浄支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄状況を確認できる表を用い、個々にあった支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた声掛けや誘導をして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事ではできるだけ野菜を食べよう声掛けを行っている。又、水分量や身体を動かすことに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の状況に合わせて入浴できるよう支援を行っている。	入浴は、通常週2回(夏は、週3回)としているが、体調に合わせ、シャワー浴や足浴・清拭を行い、清潔に保たれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	季節ごとの状況を考え(寝具・温度・衣服等)支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の薬情報を職員がいつでも確認できる場所に配置している。また、変更等あれば職員間で情報を共有している。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	進んで掃除等をされる場面があり、自主行動を尊重している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節ごとにイベントを通して外出の機会を設けている。コロナ禍のため少人数での移動となっている。	現在コロナ禍においては、外出支援が難しくなっているが、天気の良い日には散歩に出かけたり、外気浴を楽しんでいる。そして、今年も近くの神社へ初詣に出掛けたり、花見を楽しんだり、外で、お茶をしたりして気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望される利用者にはご家族同意のもと少量のお金を管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方の方には電話でお話しされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとにホール内の飾り付けを替える等行い、季節感をだしている。	玄関周りには、色とりどりの花が植えられ、来客を迎えられている。玄関ホールや廊下も広く手作りの作品が飾ってある。リビング兼食堂も明るくて大きな窓から、陽光が差し込んでいる。壁面には、四季ごとに掛け替えられた壁画があり、季節を感じる事が出来る。又、利用者さんが書かれた習字やぬり絵の作品も飾ってある。落ち着いた皆で楽しめる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビで時代劇・歌を聴くなど安心して過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人にとって安心した居心地の良い居室となるよう、馴染みの物や写真を配置し、行動スペースを確保し安全を配慮して生活されている。	本人が、今まで使い慣れた、筆筒・テレビ・机・椅子・仏壇・衣装ケース・家族写真・手作り作品等が、使いやすい配置され、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	狭いながらも生活改善に取り組んでいる（一人一人の出来ることをしている）。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 輝き ゆきの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 輝き ゆきの家

作成日 令和 5 年 3 月 31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	入所すると外部との関係が途切れている。	馴染みの人や場所との関係を継続していく。	本人から生活歴を聞き電話や手紙のやり取りが出来るよう支援していく	一年
2	48	決まった事しか実行できていない。	個々が充実して生活を実感出来るよう楽しみを増やしていく。	各利用者の要望をモニタリングし、職員間で共有しアプローチを考えていく。	一年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。